

# 事業概要及び事業評価

## 【再評価】

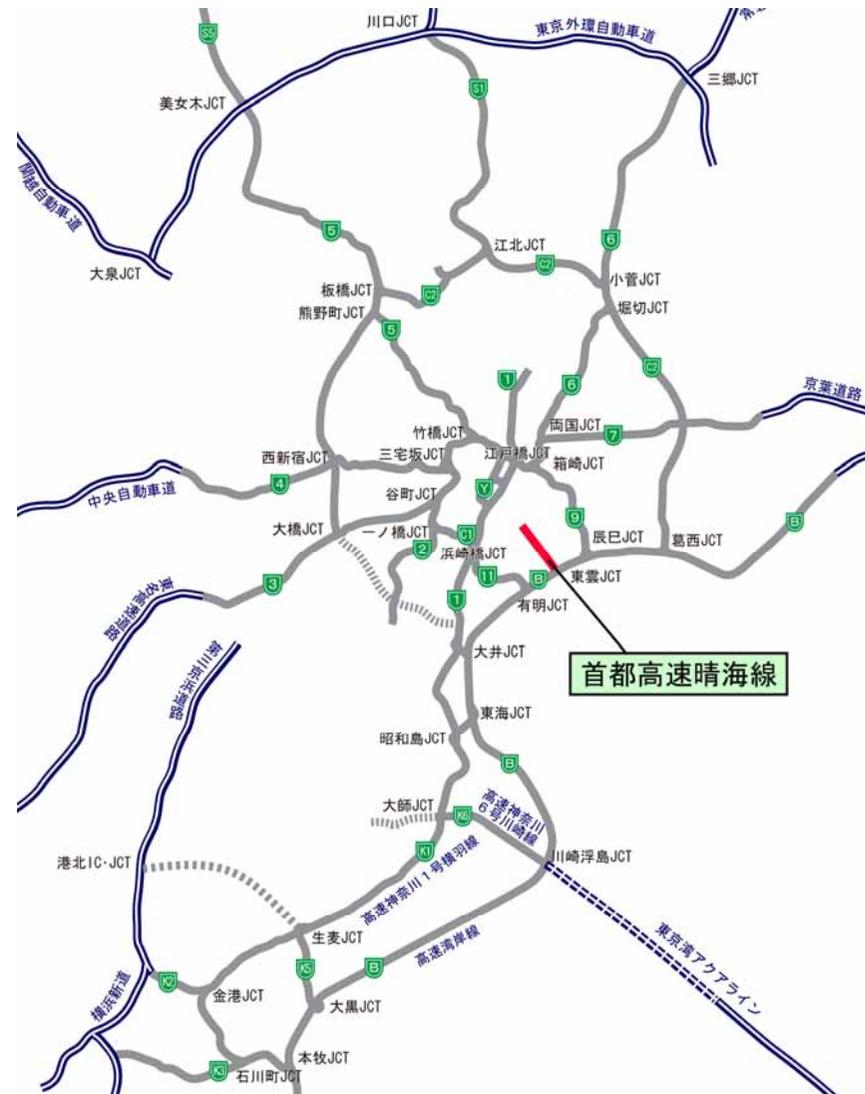
- 首都高速晴海線 -

# 1 . 事業の概要

## 首都高速晴海線

### 事業の位置

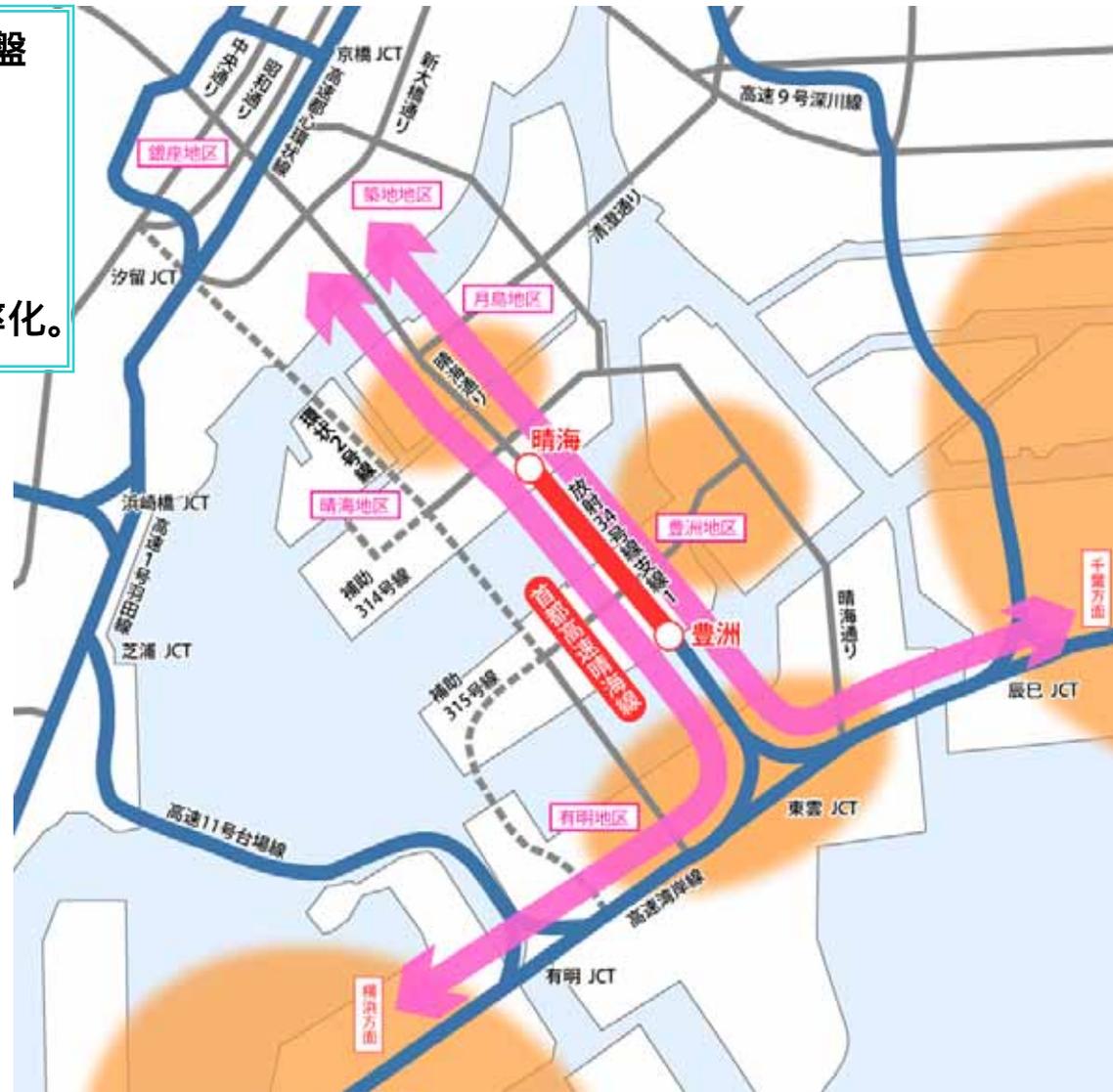
首都高速晴海線は、今後の開発が見込まれている晴海・豊洲、臨海副都心等と湾岸線を直結させ、交通の分散を図る路線。



# 1 . 事業の概要

## 事業の位置付け

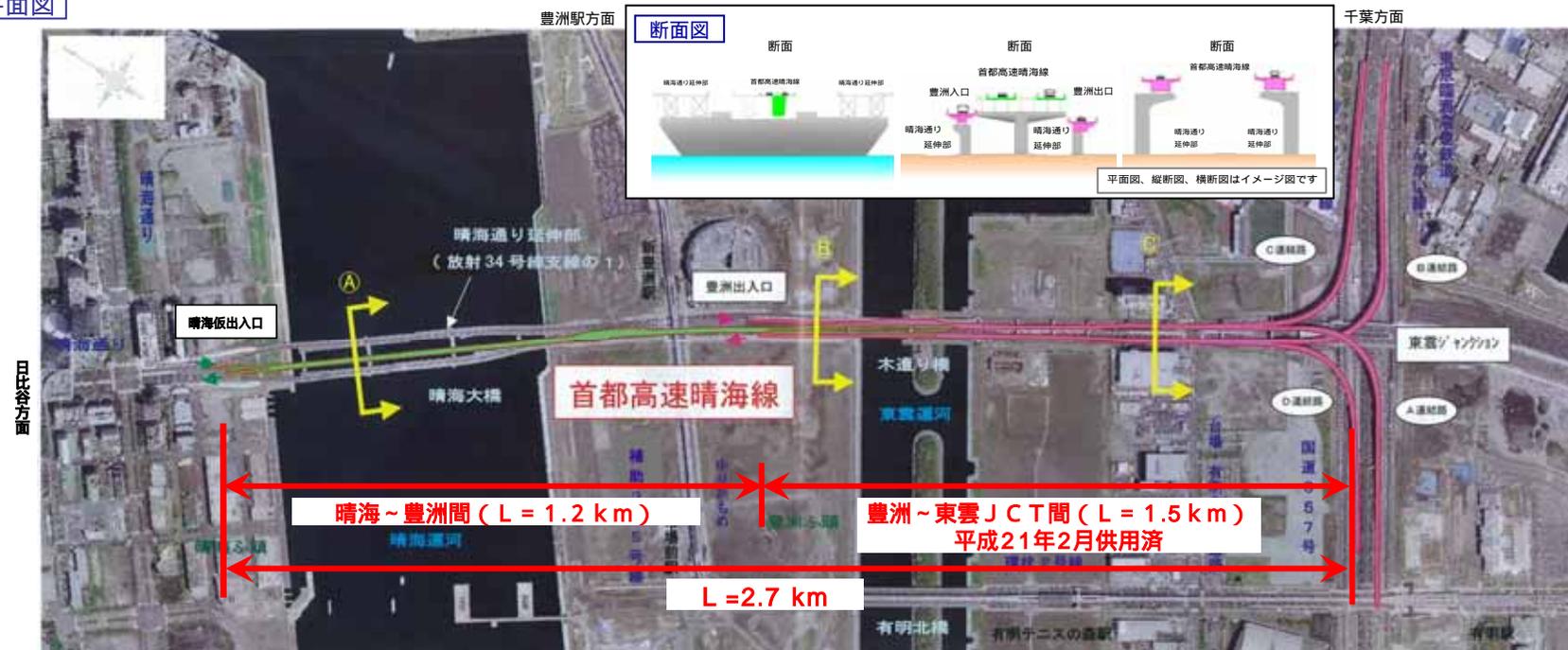
臨海部開発事業における交通基盤の一部。  
築地・月島地区、晴海地区等、  
周辺の交通状況の改善。  
臨海部の開発に対応した都心部  
との連絡強化および物流の効率化。



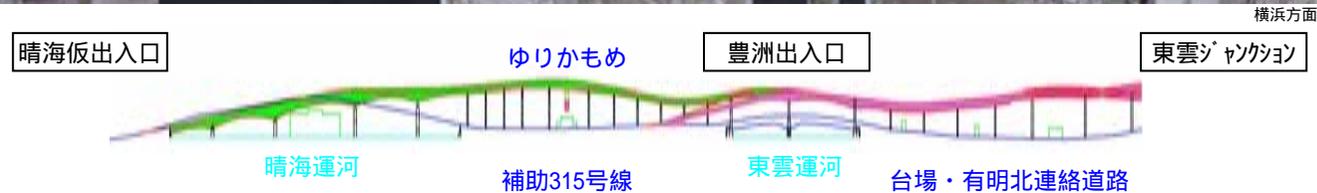
# 1. 事業の概要

## 首都高速晴海線の概要

平面図



縦断面図



起	点：中央区晴海二丁目	車線数：往復2車線(暫定整備)
終	点：江東区有明二丁目	道路の区分：第2種第2級
延	長：約2.7km(晴海～豊洲1.2km、豊洲～東雲JCT1.5km)	設計速度：60km/h
完成予定年度	：平成24年度	構造：高架構造
事業費	：383億円	

## 2 . 事業の経緯と進捗状況

首都高速晴海線

### 事業の経緯

都市計画決定	平成 5 年 7 月
工事実施計画認可	平成13年11月
事業許可	平成18年 3 月
都市計画事業変更認可	平成18年 3 月
豊洲～東雲 J C T 間 供用済	平成21年 2 月

平成 1 8 年 3 月の事業許可時点において、事業効果の早期発現等を考慮し、暫定 2 車線整備に変更

### 工事の進捗状況（1）

豊洲～東雲 J C T 間は平成 2 1 年 2 月に供用済。  
晴海～豊洲間については、周辺の開発状況等を勘案し、  
工事着手時期を検討。



開通直後の豊洲入口





## 環境保全のための対策

### 環境と周辺景観との調和を考慮

周辺道路構造物や運河部の水面と空といった既存空間との調和に配慮した色彩を採用。  
また、道路照明に高速道路では初めての白色LEDを導入し、景観に配慮。

#### < 周辺の状況 >

周辺道路構造物... B(青)系、BG(青緑)系が多い  
運河部の水面と空の広がる見通しの良い空間  
... B(青)系の色が主体  
周辺の建築物... Y(黄)系が主体となることが予想(江東区「まちなみ  
景観色彩ガイド」)による  
景観向上に関する調査研究委員会資料より



入口門型標識柱

(文字情報板も門柱と同色)



入口門型標識柱

(背面の建物外壁・街路照明柱と同色)

入口門型標識柱は、地区の基調色であるダークグレーを採用



高架橋



出口ETC門型標識柱

橋脚と同じ色を採用(橋脚との一体感を考慮)

#### 白色LEDの導入



【従来の照明】  
(高圧ナトリウム照明)



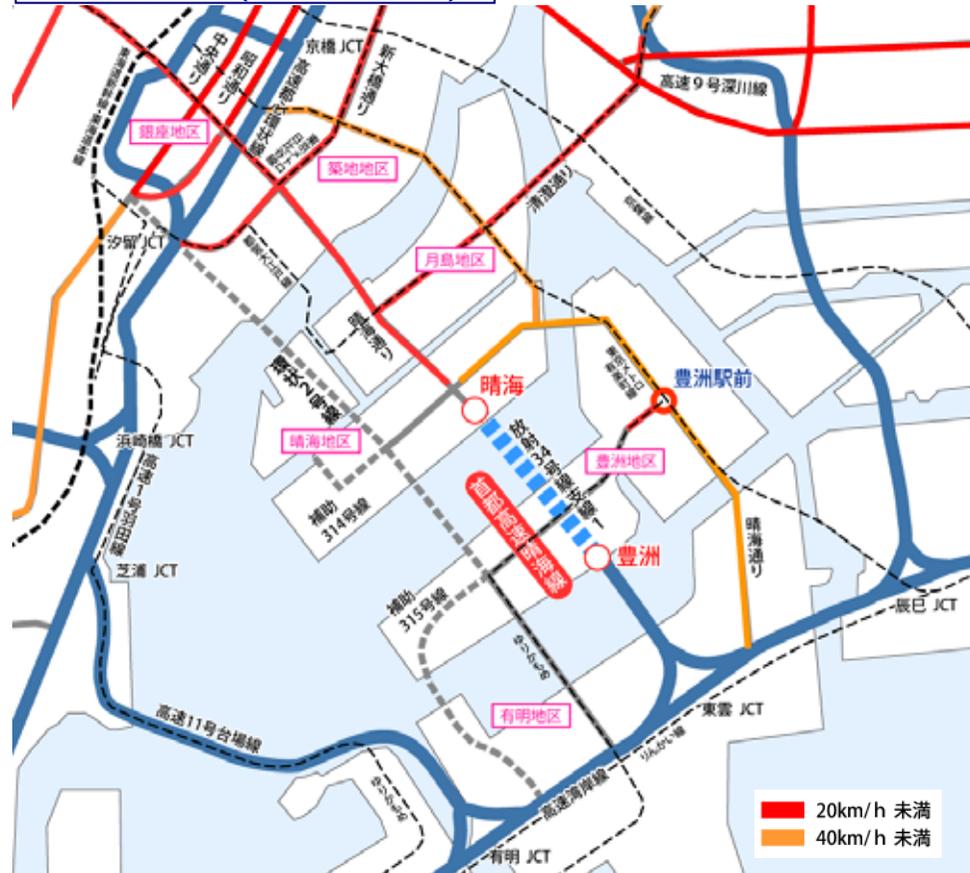
【白色LED照明】

# 3 . 周辺の状況

## 周辺街路等の交通状況

環状2号線などの広域幹線道路が未完成であり、周辺街路は混雑している状況。平成21年2月に供用した、首都高速晴海線（豊洲～東雲JCT間）の交通量は順調に増加。

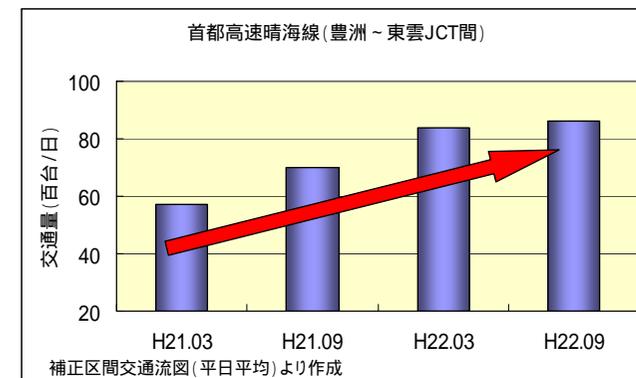
沿線の混雑状況（混雑時旅行速度）



混雑時旅行速度はH17道路交通センサスによる



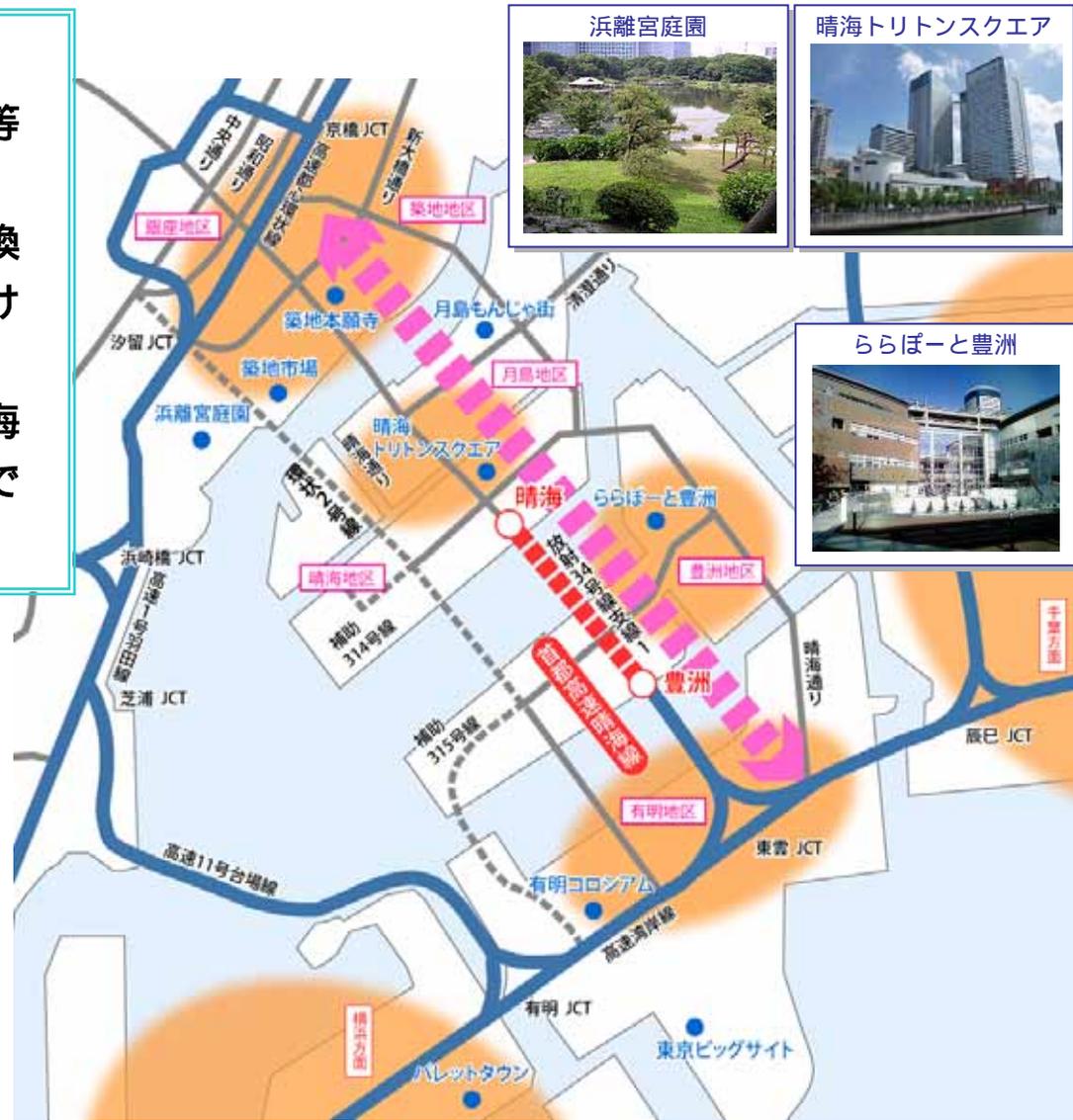
豊洲駅前交差点（晴海通り）



### 3 . 周辺の状況

#### 築地・月島地区、晴海地区等の施設立地状況

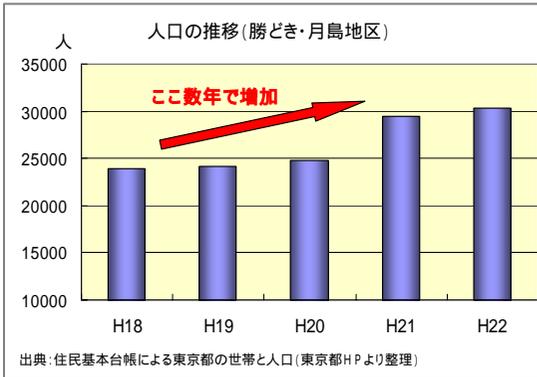
築地・月島地区、晴海地区等には、食文化地区、観光施設、商業施設等の集客施設が多数存在。これら地区は、今後の土地利用転換等により、新たな産業・住宅の受け皿となれるポテンシャルを持つ。首都高速晴海線は、銀座地区と臨海部の連携主軸となり、周辺施設までのアクセス向上が期待できる。



# 3 . 周辺の状況

## 沿線の新しいまちづくり

首都高速晴海線沿線（晴海、豊洲地区等）では、ウォーターフロントの特性を活かした複合市街地の形成が目指されている。  
 特に、勝どき、月島地区等においては、関連開発による将来的な需要増加が見込まれており、現在、超高層マンション等の建設が急ピッチで進行している。



超高層住宅の整備イメージ (晴海三丁目西地区)



晴海・月島地区の現在の状況 (築地方面から晴海・月島方面を望む)

# 3 . 周辺の状況

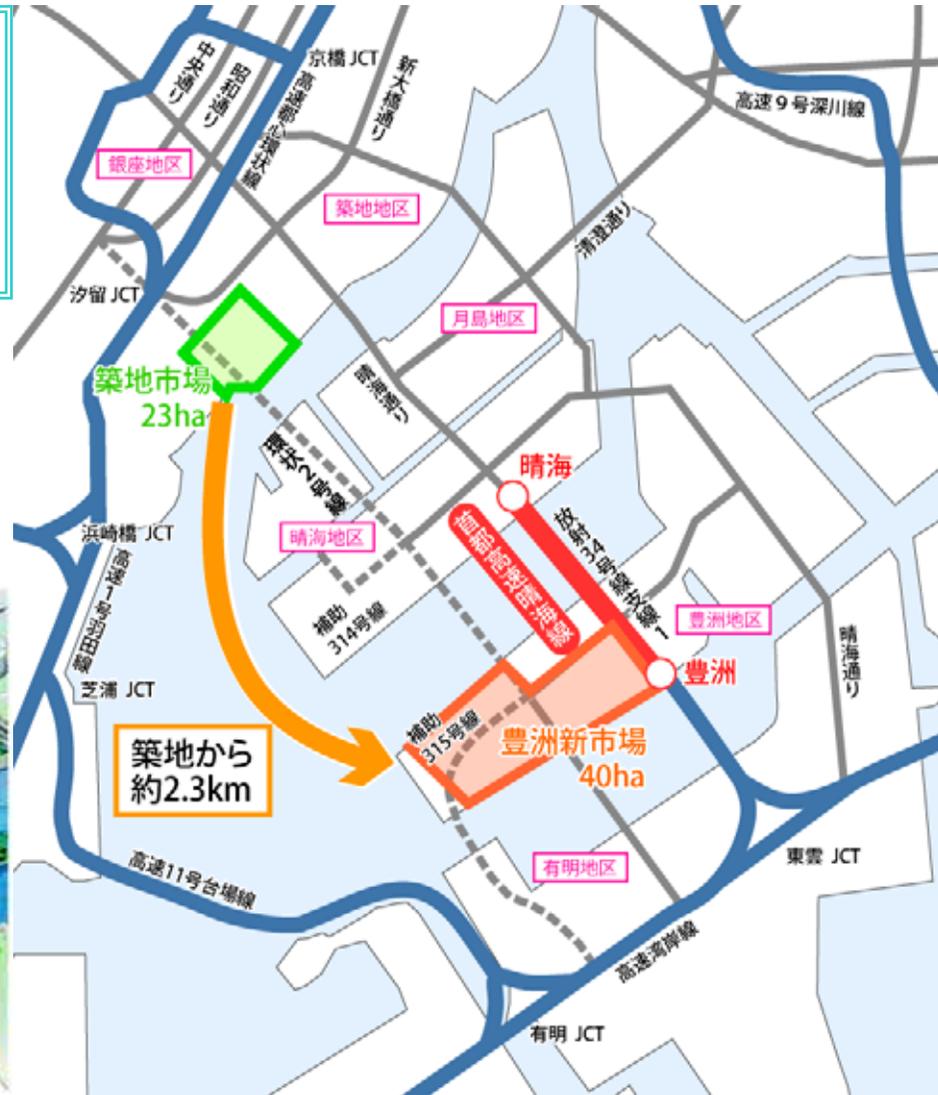
## 築地市場の移転計画

築地市場から豊洲新市場への移転については、平成24年度内<sup>1</sup>から、平成26年度完成<sup>2</sup>に変更して、整備を進めている。

- 1 : H17.4 「東京都卸売市場審議会における東京都卸売市場整備基本方針（答申）」より
- 2 : H22.11 「豊洲新市場建設事業の環境影響評価書案を提出しました」東京都報道発表資料より



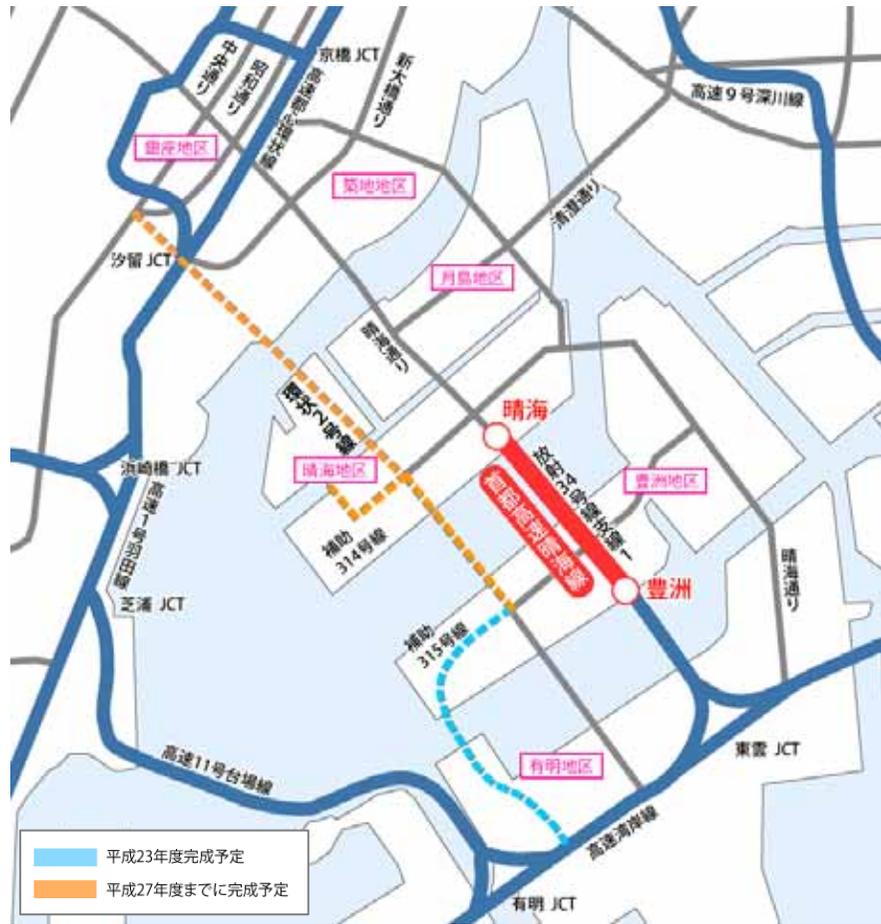
出典：東京都中央卸売市場パンフレット



### 3 . 周辺の状況

#### 周辺の広域幹線道路の整備状況

近年開通した放射34号線支線1をはじめ、平成23年度に補助315号線、平成27年度までに環状2号線や補助314号線が整備されるなど、周辺開発と一体的な街路整備が進められている。



月島・晴海・豊洲・有明地区



晴海大橋 (放射34号線支線1)



豊洲地区(補助315号線)



有明北橋 (環状2号線)

### 3 . 周辺の状況

#### 周辺開発の進捗状況（まとめ）

築地市場の豊洲地区への移転時期は、平成26年度に変更された。  
周辺街路の整備については、平成27年度までに完了予定。  
現況、豊洲地区、晴海地区は、開発途中段階であるが、平成27年度までには、  
周辺都市基盤が概成。



豊洲周辺空撮写真（平成22年春頃撮影）



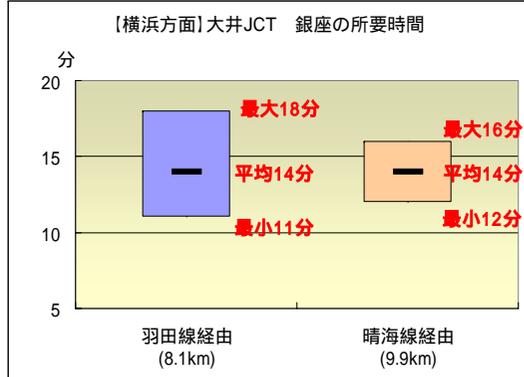
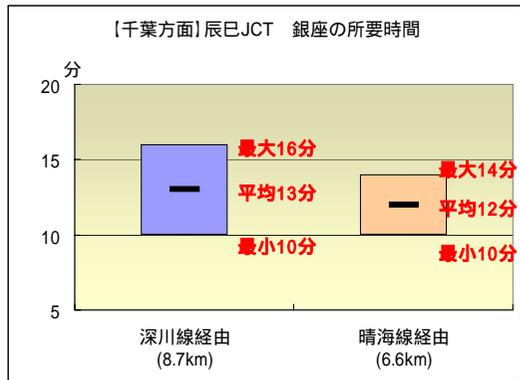
臨海部空撮写真（平成22年2月撮影）

# 4 . 事業の効果

## 代替ルートの確保（首都高速晴海線（豊洲～東雲JCT）の開通）

高速湾岸線から都心（銀座）へ向かう場合、首都高速晴海線利用の所要時間は、従来ルートと同程度。代替ルートとして選択の幅が広がる。

高速湾岸線 都心（銀座）の所要時間



晴海線経由の豊洲出口～銀座は街路を走行 出典：首都高速道路\_記者発表資料より作成

お客様からの声

都心へ向う際のサブルートとして晴海線の利用を考えています。  
また、豊洲駅～羽田空港ではメインルートとして晴海線を使っています。



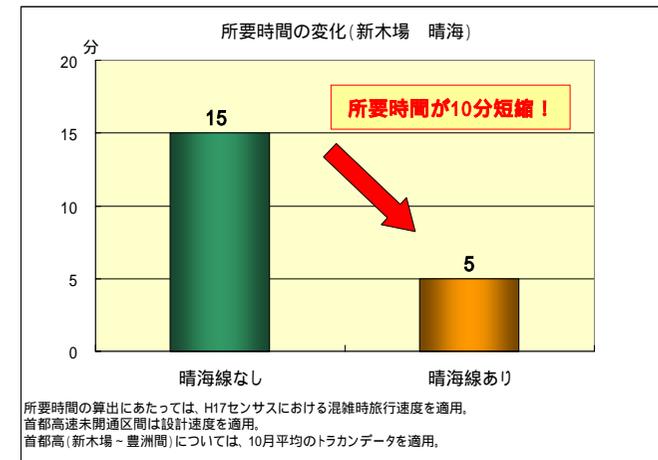
（バス事業者の方）



# 4 . 事業の効果

## 交通利便性の向上

首都高速晴海線（豊洲～東雲JCT）の開通により、湾岸線から豊洲地区へ直接アクセスが可能。  
晴海まで完成することで、利便性が向上し、所要時間も短縮。



開発フレーム

地区名	開発対象面積	居住人口	就業人口
晴海地区	約107ha	31,000人程度	39,000人程度
豊洲地区	約110ha	13,000人程度	44,000人程度
有明北地区	約114ha	38,000人程度	14,000人程度

出典：海に臨む東京の新しいまちづくり  
(東京都都市整備局パンフレット)

## 4 . 事業の効果

首都高速晴海線

### 周辺の交通状況改善と都心部との連携強化

築地市場の移転により、豊洲新市場周辺では関連車両や来街者等の需要増が予想。  
首都高速晴海線（晴海～豊洲間）の整備により、新市場周辺を経由せずに晴海地区や都心  
方面への往来が可能となり、交通の分散化が期待される。  
また、都心環状線方面への延伸も計画されており、都心部との一層の連携強化が期待される。



トラックで混み合う出入口



路上に商品が山積み

築地市場周辺の様子

## 費用対効果分析結果

## 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年における 現在価値 (B)	1,900億円	561億円	302億円	2,764億円

## 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年における 現在価値 (C)	396億円	91億円	487億円

## 算定結果

$$\text{費用便益比 (B/C)} = 5.7$$

基準年：平成22年度

- ・費用及び便益は整数止めとする。
- ・費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

## 6 . 今後の整備方針（原案）

首都高速晴海線

### 事業の必要性等に関する視点

首都高速晴海線は、臨海部開発事業における交通基盤の一部を担う。  
本事業により、高速湾岸線から晴海地区、豊洲地区に直接アクセスが可能となり、利便性が向上するほか周辺の交通状況の改善が期待される。  
高速湾岸線から都心に向かう場合の代替ルートとしての選択が可能となる。  
費用対効果（B / C）は5.7である。

### 事業進捗の見込みに関する視点

豊洲～東雲JCT間は平成21年2月に供用済。  
晴海～豊洲間は、周辺の開発状況等を勘案し、工事着手時期を検討中である。

### 都道府県・政令市からの意見

東京都知事の意見：首都圏において、人・モノ・情報の交流を支える高速道路は、国際競争力の強化や地域の活性化に資する最も重要な社会基盤であるため、首都圏の高速道路網の早期完成を図ることが重要である。  
首都高速晴海線は、現在、都心環状線を利用している築地・月島地区の交通、また今後、臨海副都心・豊洲・晴海の開発事業により発生する交通を高速湾岸線に直結させ、都心環状線との連結の強化を目的とする路線である。  
当該事業により、晴海地区などの交通が湾岸線方向に分散することにより、周辺の交通状況が改善されることになり、物流の効率化や臨海部の開発促進に資することとなる。  
従って、当該事業については、計画的に事業を推進し、早期完成を図られたい。

### 対応方針（原案）

当該事業の再評価は『事業継続』とする。